

目黒区長賞

未来への投資

目黒区立目黒南中学校 三年

これまで、税金と聞くと、負担や不正の報道など、どこかマイナスな印象が先に立っていた。そんな私でも、いつも通っている道路や、毎日通っている学校、ゴミの処理など、日常の中で税金によって支えられていることは知っていた。では、なぜあまり良い印象を受けないのか。

私が良い印象を受けない理由は、ずばり、自分が納税しているという実感がないからだと考える。負担に感じているのは主に働いている世代だという先入観で、自分ごととして捉えにくかったのだと思う。ニュースを見ていると、税金に関する報道を見るたび、肯定的な意見が少なく、不信感を抱いていた。それでも、私も数年後には納税者として様々な税を納めることになる。だからこそ、将来当事者になる身として、自分が今どんな恩恵を受けているのかについて改めて学ぶ必要があると感じた。

私は、高校生になったら海外留学に行きたいと思っている。日本から飛び出して、「医療で人のためになりたい」という将来の夢のために、自分はこの世の中で何ができるかを学びにいきたい。まだ具体的な夢ではないが、多くの人を支えられる存在になるこ

とが私の夢であり、目標だ。しかし、留学には多額の費用がかかることを知っていたため、躊躇していた。そんな時、日本には、「給付型奨学金」があることを知った。この奨学金の対象者になると、高校生でも国から奨学金を受け取ることができる。さらに、二〇二五年度から所得制限が撤廃され、公立高校に通う子どもがいるすべての世帯が授業料相当額の支援を受けることができるようになった。二〇二六年度には、私立高校でも同じように制度が緩和され、授業料支援の上限額が引き上げられる。これらの取り組みにより、自分の学びたいこと、やりたいことを自分から挑戦できるようになった。自分の将来がもつと広がり、たくさんのことを経験できるチャンスが広がったのだ。改めて考えてみると、普段当たり前のように学校に通えているのも、今、私たちが安心して学ぶことができているのも、学校の設備費、教材費、その他たくさんの方々の費用が税金によって支えられているからだ。

これまで、私は、ただお金が取られるだけの制度という印象が強かった。しかし、今は、自分たちの日常生活を支えるだけでなく、未来への投資でもあると考えられるようになった。自分の将来を応援し、支えてくれる存在であると感じた。数年後には、私も働き、税を納めるだろう。その時は、自分の生活だけでなく、未来を担う子どもたちをも支えているという気持ちで大切にしたい。そのために、今恩恵を受けている私たちは、自分が将来何をしたいか、そのためにどんな経験が必要なのかを考えて、自ら学んでいきたい。そして、将来、この受けとった恩恵を次の世代へと返していきたい。